

県内屈指の釣りスポットに

新方式でワカサギ増加

梅田湖 来月6日解禁へ好感触



桐生市梅田町の梅田湖をワカサギ釣りの人気スポットにしようという両毛漁業協同組合(中島淳志組合長)の取り組みが成果を上げている。昨年、「諏訪湖方式」と呼ばれる新たなふ化方式を県内で初めて導入し、2年目の今年はこの方式で2000万粒の卵を放流。調査の結果、従来は15%程度だったふ化率が90%近くと飛躍的に伸び、魚の数が増えたことが確認できたという。

.....

試し釣りで得たワカサギの生育状況を確認する両毛漁協の関係者ら(梅田湖で)

同湖の今季のワカサギ釣りは10月6日に解禁される。これを前に、漁協は15日、魚の生育状況を確かめる試し釣りを行った。

台風の接近に伴う荒天で、試し釣りはわずか3時間で打ち切ったにもかかわらず、30人中4人が100匹以上の好釣果。魚も9ヶ月前後が多く、最大11センチと生育状況も良好であることが分かった。

漁協は昨年、ワカサギのメック諏訪湖(長野県)で開発されたふ化方式を導入。生育しやすいように厳選・加工された卵のみを、円筒状の装置でふ化させ、稚魚を湖に放流している。

シュロの繊維に受精卵を付着させて湖に沈める従来の「シュロ枠方式」は、仕掛けに膨大な手間がかかる上、カビの発生で死卵や病

気が出やすかった。諏訪湖方式は装置が簡単で手間と経費が大幅に削れる上、ふ化率も飛躍的に向上することが分かっている。

群馬県水産試験場の調査によると、シュロ枠方式のふ化率は約15%なのに対し、諏訪湖方式は約90%。少ない卵の数で効率的に魚を生育できるわけだ。

試し釣りで得た魚の

一部は同試験場が持ち帰り、放射性物質の検査を行う。湖水の滞留時間が短い同湖は、閉鎖性の強い赤城大沼などに比べ、セシウム濃度の低下が著しいことも分かっている。

100年住宅

KES

Enjoy Beautiful Life

私たちは、地球、環境、そして人にやさしい「家づくり」を考えています。

清水開発株式会社

☎53-2580

中島組合長は「試し釣りは大成功で、新方式の効果が実証された。県内屈指のスポットになった梅田湖で、人気のワカサギ釣りを多くの人に楽しんでもらいたい」と話す。